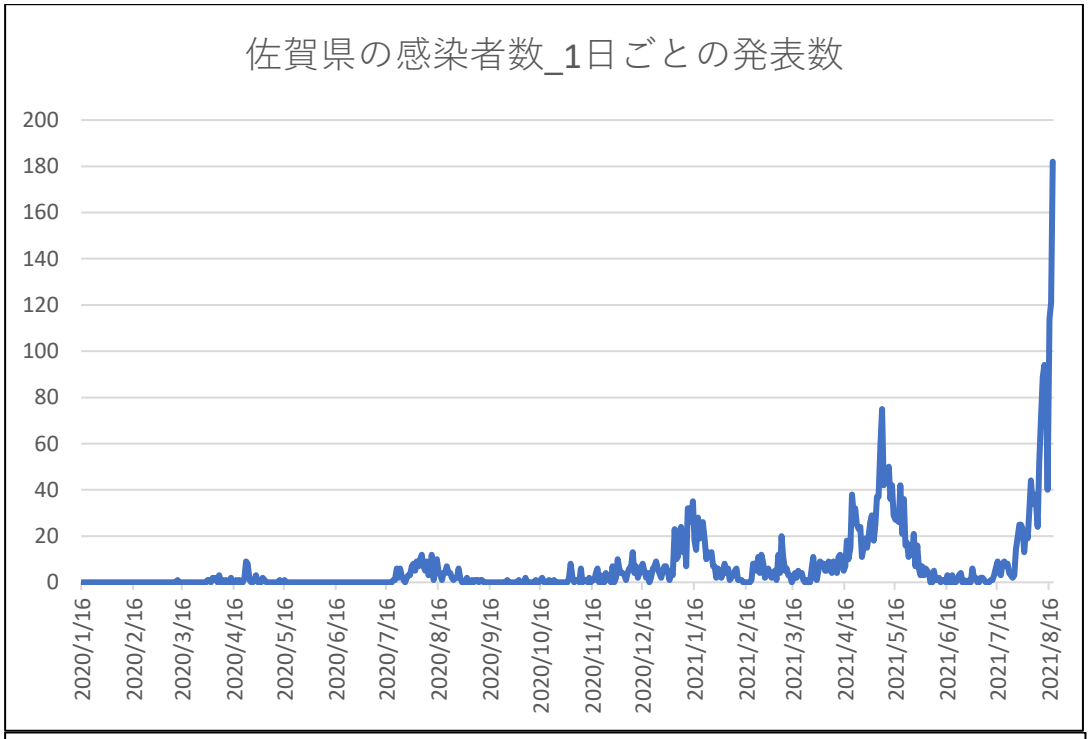
夢をかなえる学校

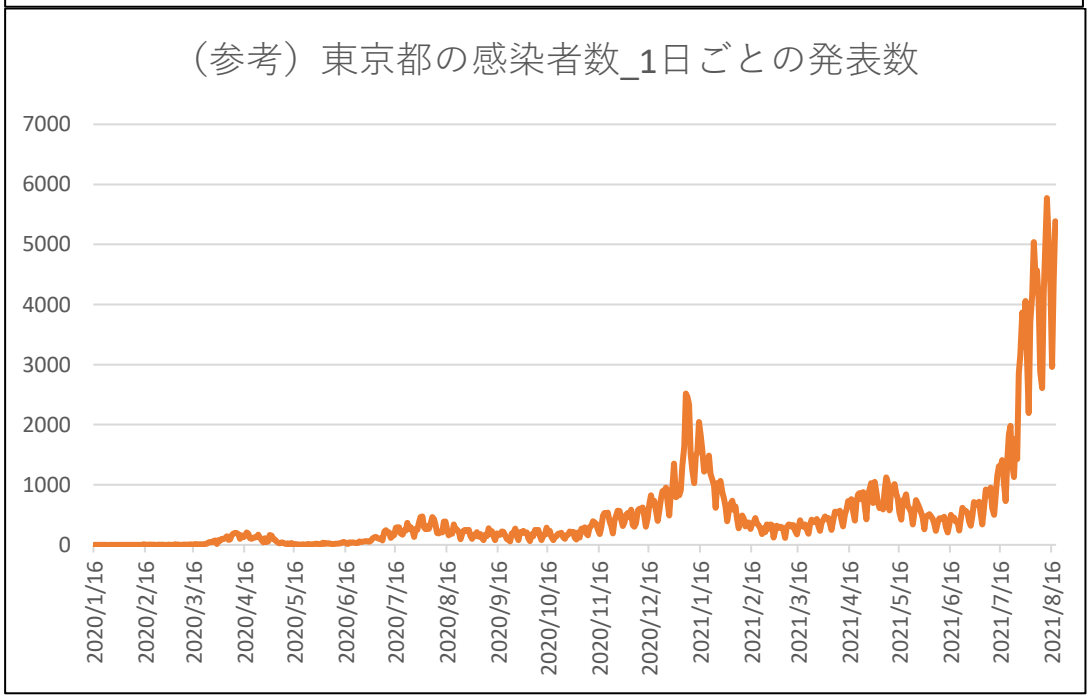
令和３年８月 31 日（火）
第 16 号
文責　校長　空閑宏史

学校教育目標　　ふるさと松梅を担う心身共に調和のとれた子どもの育成
学校スローガン　「小さな学校　大きな未来」

◎コロナウイル感染症への対応

佐賀県では、令和２年３月 13 日に最初の感染者が出て以来、８月 18 日の時点で 3856 人の方が感染されています。それをグラフ化すると以下のとおりです。





これを見ると今回の感染者数が、以前とは比べ物にならない位、急拡大しているのがよく分かります。また、佐賀と東京の感染者の波形が驚くほど似ています。

裏面有

今年度、保護者様や児童生徒へ感染拡大防止の取組について、何度かお知らせして参りました。２学期を迎えるにあたり、大きく２つの危機意識を持っています。

１．児童生徒への感染拡大をどのように防ぐか

◦「密閉」「密集」「密接」を避ける→最大限実施しています。その反面、学校行事へ保護者・地域の方を制限なくお迎えできないことを誠に残念に思います。

◦飛沫感染を防止→距離２ｍ以上（間隔がとれない場合は１ｍ）、マスク着用、手洗い又は手指消毒の実施。

◦エアロゾル感染を防止→換気、手洗い又は手指消毒、（マスク着用）の実施。

<u>※マスクについては特別な支援を要する場合を除き、他に簡便かつ安価に予防する他の方法がない以上、是非お子さまに着用をするようにお声かけください。</u>

２．風評被害を未然に防ぎ、思いやりのある心を育てる

今やコロナウイルス感染症罹患は身近なことです。そこで始業式では、児童生徒に対し、校長と副校長から説話を行っています。

○なぜ、学校はお休みにならないの？
→学校は、学習機会と学力の保障だけではなく、子どもたちの居場所やセーフティーネットとして健康を保障する福祉的な役割を担っている。 だから、地域一斉の臨時休校については、学びの保障や心身への影響などを考慮し、慎重な検討が必要ため、簡単に休校にできない。

（児童生徒の皆さんに望むこと①）

○自分自身に風邪の症状出たら…→学校を休んで、病院に行って診断を受ける。 ○お家の人が PCR 検査を受ける→すぐに学校へ連絡して、陰性の結果が出るまで休む。

（児童生徒の皆さんに望むこと②）

○感染した人が誰か調べる意味はあるか？また、調べて何をするのだろうか？
→保健所が感染者を調べるのは、周りの人に PCR 検査をして、感染していないか調べるため。 PCR 検査をできない私たちが、誰が感染しているのか調べる（詮索する）のは、全く意味のないこと。私たちがすべきことは、他にある。

（皆さんに望むこと③）

○感染した人、ＰＣＲ検査を受けた人は、どんな気持ちだろうか？
→私たちがすべきことは、不安な人を応援すること。 →あなた方の行動が、松梅校を表します。あなた方には、松梅校を背負っているプライド（誇り）を持って欲しい。 その誇り高き松梅校の児童生徒は、コロナウイルス感染症で苦しんでいる人たちを応援し、助けるために何をすべきか、みんなで考えて実行しましょう。

（佐賀県からのメッセージ）

県民の皆様へ 新型コロナウィルス感染症に感染された方やその御家族、濃厚接触者に対して、不当な差別や偏見があっています。 佐賀県は慈しみ合う県です。感染された方、その御家族、濃厚接触者などに対する情報の詮索、不当な差別、偏見、いじめというのが決してないようにお願いします。

更に各学級でも担任から補足説明を行います。また、別途取組について文書を配布します。